夫木和歌抄

巻第廿四

内閣文庫
内閣
1.765
24

A
141
1765
24

次下別頁

改頁

221

史本和歌拾遺第六巻

雜部六

部

淵

河

ツヅク

瀬

沼

仕載前例ノ儀

222

伊豆國 豆藏書 熊坂村

河

三行分トル

部山川

新六二

山川のおちまさるそこの岩さくれよりとめおもふ

同井せき

同三

山河の世々に井をおそくもあくるかなとおもふ

同うさめ

うきて世をなげくあまをとまるうさめやうつまくなのまゆみ

同

知らそうそうて来場京

わか

秋恋ハ河りてる川のそこつるわやすゝ名よいとゝ

洞院摂政家百首五月五日

常盤ゝ井入道太政大臣

衣笠内大臣

正三位知家卿

郎女内侍

岸

悲

岸

222

八月廿八日ねたるうち夢に

文永四年毎月ごとに中一殿の御家

六はやうらの浦川みつこちてまうりかねうめ月毎の所

中務の親王家又十首歌合

前伯耆中納言

この世はいらつの浦川みつこえてあひみぬさきはれのうら

源為昌

久しきたちのみそぎ川ふるぬ里まてあらはれなうら

夜四条中人家

阿仏尼

タくれのすのトきうたまうとうれまむ

またなみ

弘安四年六月廿日海路鎌倉

今はうの浦ちの浦はゆくうらうちうつ人はまれ

家集拾花映水

萩イ

いせ

源仲正

くま

ねたり信川

ねはは聖河のこつ拔ひてあらへとそきのこいなれも

元た

あうびうう所人のきく物うれいらあう

俗物語

澄

うまつ人ふうこ河せやすんあうひうのれそむ

古物語六十或物語

なこ

ふうこ

天

あ神の河ふうこたのまう秋うわやあしきあす世の

にけり

家集中人のうこうけ七月七日

小大君

天川うきくるの月は秋なれいきこころのうらにすみこそはなれ

承安二年廣田社奇合歌

伊勢三位

雲のうきこころにけ入ぬるかの天の川原よりこそやつめ

万里集

詩奇判右傳如白氏洛陽ゆきこ到平漢沿十

おりしくこそ物思ふ白のくれぬるまて侍いと沂

歌

花桜同保時代家 奇合

天河のやそのうきくもうきこころ元てうきこころの月をかな

河内高安

うきくもうやまひこんの子すこるるこつるあ風は河波

道

為雅の山居奇合

あ風の川みきはすしき桜はるふいあつきれ女もやまとれぬ

千五百番歌合

東三のみこ

天のうくもうけこころのうちうるひきいその枕まくらは桜はうつく

文治三年右方歌奇中第中納言宣家

さうの月うは波のつくへよもうれんあまの海原の秋の初はつせ

伊勢の温泉へくりけて

歌 右方

なりれ出る岩のつくれ世をとるれとをきしもとのやまの

225

文治六年五社百首 泉川山橋

[illegible]

皇太后宮大夫俊成

正治二年百首

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いもせの河のこつゝみ
よりうち猪名野
よりうち猪名野
よりうち猪名野

はかり

いつ年ふるみのうこそみてくいこの門はかせつつ

貞応二年四月廿日石川成方歌

みかりこの山のゆきかせしをしいくの門はゆくはしる

百首歌十人歌

藤原基隆

新続古雑下

世の国のいこの門のみかりこそたれ年月のくに

弘安三年百首いとい河 陸奥国

波ふかなりて行へいとの門いとはあるかれなり

鄙月和 六れ

六之

みそれつくへくよりぬいとの門波のさりいかはとよりとり

よしへ

藤原為氏

中ふゆる小のこほりのやいるるんいはるこうの芸氏和泉

いつもこのうこのこまでいつも河のれり

に

りて

尋

いつも門ふるさ氏牛ぬまいこうこにつこ人和泉のこ波

永仁三年七月源清仲名所百首不会

藤原為親 藤中納言

いつも門うこのみこの門のうこさ人に成こそ深れ秋の月

正治二年百首 つ

ぬさ河 ミの

陸奥歌 按改

新千賀

しろ田のいねつる河のたまさかに
かりかねなくなる方のこゑ

法橋行朝

とし

しろ田のいつゝのさ川よ
高市荒いるば川、 同懐
ゆきゝ人たつず

六三

いなは川いなとはなれよりひたくいなりなる世なりまほしき
郭公なくこゑのうつ 未 書岡 同

日

あさことにいけみの六 の六新勅 新勅撰四
ゆきかへるこゑのかたに
同懐中いさゝ河 常陸 同

世をたゝしるゝ人もなきゆきよあやしてゝいさゝの川のゆきあ
同懐中いなの井川をゝ 同

あつまのいなの井かはのなすてゝ中とはたのみ
能宣朝臣

東集

國

ちゝとせよつくまるみよのたまてゝいなの井川のすゝ
郭公なくこゑ 山城 常陸
よゝ人たつゝ

水

あつまのいつゝ川
東集いつゝ川 紀伊
忠盛朝臣

熊野

ちゝとせのやいつゝ川のあのたまもの
郭公なくこゑ川 六 和
人丸

百九

ちゝとせ川 伊
ちゝとせ川なりしかとうの家のみかとよりとこたに
よゝ人 百和

日

五七 続後撰

初瀬川ゆくすゑみえぬ水の泡のうきてしたのみ

五七 たゆたはぬ水のあはれ

三輪川の霞まぬ

大納言

みもろのやとのあけぬ夏の初瀬川

我

ゆきあひ人もとまらず

初瀬

五十二

たまかはの川なみたかくなりぬれば

六三

初瀬

同

彩つくるゆのみなかみもとまれ

千首歌

白

むら濁りたつをうつのゆきうつ

家長卿

[illegible]

新六六

かくれぬのうつをの河のわくまに袖さひぬるはいとさ

家集述懐百首中　清輔朝臣

たちつる河のあさまくてたちぬ

[illegible]

五十三

こりえ乃たつの門の、みちもなくて、たちり世に、

ゆくひとうたつ、ひとに、かくれけて、ぬくひはまてまれ、

[illegible]

[illegible]

家

錦

[illegible]

中納言通俊卿

[illegible]

國

[illegible]

中務卿親王

川

[illegible]

[illegible]

[illegible]

231
769—784

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

建長八年百姓等[illegible]
[illegible]
百姓等[illegible]川[illegible]
[illegible]
八幡宮[illegible]合河[illegible]

[illegible]

建保四年百姓
[illegible]
[illegible]

[illegible]

七百貫[illegible]
[illegible]
[illegible]

新六二

[illegible]のやそ[illegible]ひとりおいあすかやとうんこの門の波

雜部中より　宗師光[illegible]

[illegible]の[illegible]川の[illegible]朝[illegible]ほらげ[illegible]

同ちくま川三[illegible]の　中納言兼[illegible]

六二

[illegible]の山[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]

[illegible]

[illegible]

信濃[illegible]の川の[illegible]

洞院摂政百[illegible]　光明峯寺入道摂政

[illegible]

家集ちくさの六書

[illegible]

[illegible]

[illegible]

法性寺入道関白

[illegible]

家集 雄雄 河 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

六三

郭公百首

ほとゝぎすはつこゑをたなすゑにこゆるかこゑはたれもまつらん

藤原為隆

拾遺集

うさゝゝのひとゝれ果てゝつもれるゆきのあしたとぞみる

摂津院の河百首　拾遺河山橋

拾中納言師時

うゝゝゝてゝ月ゝけのやとるゑはいまよ住まてゝたにみえゝる

家集

実方朝臣

続後撰雑上

ゆゝゝゝ

かつらぎ川のうけひろう同よりそすまして志つじ見えんのそうさ
ようさん志ずず
新さんこうひ物ものうこうの海ましてを絶しーこうかな
同紙屋河ゑ
かりみてもうとうとも思へ
天正元年八月新発田下越へ合戦ゑ
同
をちこち
生駒のきしの生駒ひ生ゑるて志ちゑ文めうこ海かな
新石和峠ゑれ川
同
万土
ケ海ゑののうこうれ川ふうて志ゑるもうゑ共名
文永四年三月合ゑの川
厚ゑる赤御

ひんのうこうこうこうこうこうこうこの河
海道富士百首ゑ女河
お候
鎧
桑海ゑ和ゑ
うちうこうこうこうこうこうこうこうこの河
新ゑ石ゑの川ゑ和
ようさん石和
うこ河ゑのうこ紀ゑうこれゑうこん万代ゑて
岩豊の文御華寺時ゑ
同
柿本人丸
八ゑうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
同
吉
美人ゑ花ゑうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
同
神ゑ花みゑ世ゑうこうこうこうこうこうこうこうこ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

家集ものく川 山家

光俊朝臣

たえまなきうきものの川せよ船とうらの

赤人

同

百十

もののあはれとしるらんとよみきの山のあれはてゝ

ようこゝしらず

郁芳門院

六六

みるのうらのはてしらぬ海にうかぶ鷺

りてなき

貞応三年十百首

郭公

あさ

郭公なくこゑにこそ初音にはあやめぐさにかゝる人

遠島五年毎日一首中 同

しのゝめの初日のうらのよるなきにみさゝのうらのふねひと

建保二年百首 同

さゝなれのうきのうらてよる船をうきゝ沈みちのくの川あ

文永元年十社百首 同

みちのくのあしのはつてをすゝぬるかはの波

同院御歌百首五月雨 法二位殿

雨ふる淀のみなとのみちてひのくれぬほかりやく

まぢの海のうきまくらゝ

ようこゝしらず

かは

河ものゝうきつるてよる河をみてくぬきしたのうる

郁芳門院

ゆふ川美百首 同

千首哥

啓白

新編元亨年中撰ゞ

順

社

加茂

保安二年閏六月始ゝ歌合

神祇伯顕仲

金葉高上

風體秋上

寛治二年百首

寛治二年百首

寛治二年百首

1240

[illegible]

寛永三年百首川　　参議為村卿

きよれいな玉鳴河のあさ波をかりはよるれい者そのなき

よりくへもとすず

部屋集　信濃の国佐久郡　浅間山或名わ世

行川のそこの水はちりうせ[illegible]花[illegible]そのよりもなをかくれぬ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

遠州八幡宮　第六番　[illegible]

[illegible]せの川せゝぎ　[illegible]

永保元年　[illegible]

第中納言[illegible]

[illegible]河の瀬ゝ　みのゝけゝみ　[illegible]

貞応三年　[illegible]

[illegible]

[illegible]

242

新さいさきのうに　にれてさくゆきを　日
洞院殿御百首　光俊卿　入道摂政　かは
ゆきとりいろうつるのかはのなかれに　ちるなみさへぞ　山ぶけよて
鄙の色ちるきのふ　山路
ちるこゑもとどめず
新てのうきすれの海のうへ　ころも
家集　光俊卿　山路
いとくもかすそめうつる　長
西行上人
西行上人　樂
西行上人
のこりのちるきりの　末
家集　うつり川　清輿
大納言隆房
藤原師
とり
百首　名取川
ちりぬるかはつりてゆくうつる中間をとりたつけてゆくうつれのこる
清輿
大三
ちるうつり川　幾
ちるうつり川　夜
永久四年百首　清輿
なみた
源行家　拾遺抵掌抄
源うつるかはたちうつる源のうつるのうつるこゑのうつるさ　哉
源院の内百首　ね
花中納言　国
うつる川月のうつる身の紅葉　思
なけき　反せ
仁安二年二月の歌合　清輿

2413

（こひ）恋しさの涙の川の浮き舟に
なみた
人を乗せぬ日もなしかな

洞院摂政家百首

恋中納言定家卿

なみた
涙川あふせはいかなるものなれば
なみた
なみたの中のうきうきの涙ぞ

弘長元年百首

日

なみた
涙川あふせはいかなるものなれば
なみた
なみたの中のうきうきの涙ぞ

涙
なみた川あふせはいかなるものなれば
なみた
なみたの中のうきうきの涙ぞ

宝治百首

日

夢に
夢ぞ
なみた
なみた川あふせはいかなるものなれば
なみた
なみたの中のうきうきの涙ぞ

宝治百首

藤原為親

一夢ぞ
夢ぞ
なみた
なみた川あふせはいかなるものなれば
なみた
なみたの中のうきうきの涙ぞ

一夢ぞ
夢ぞ
なみた
なみた川あふせはいかなるものなれば
なみた
なみたの中のうきうきの涙ぞ

建長百首

法二位家歌

人をのうらうらのあらうらうらのあらうらうらのあら

三十四

人のあるをけきまれば中河をあらしけるかとこそ

あらしけるかとこそ

郡主寺道の人に中かぐいてぐすけるに

七月十日

為秋名所

なりてのうちはいとうとき中にとやらうとれたる

文永元年十七社百首　藤原為家卿

やとさびに一まつやとやとうきいてく中海のうち

百首の四十

為秋名所院四郎

枯れのやはいつきの色のいとなみなめるうちのうち

すまかるやとそ宿川の波をあてともとにけるかな

永仁四年

おもふ人遠ちなるやとそうち川の底ふかみとすとのあくとも

渡

前摂政

為信卿

むらさきのきしの柳乃えうなれさほやりもくなみなりなる

為三位家雅卿

宮二十中

明王

夕暮ハ下ハせすくれ海ハうるはしくもうるはしくもうるはしの海乃うらの郷

郡屋和歌中

國に

はのうちにありさいとうるむらさきの海のなかれはてるまいれ

為家卿

後鳥羽院

いうふてていひうてめんにのうてもとうはもとうとうる

245

三ノ下

このうちにみちのくにうまれたる人の
つくりてそこにあるあをいなをとるしのさきに
ながれ入河をばいかゝ河とぞいひける
こゝろをよくく

家集にこゝろをよめる人のりとうの和尚をもて
うまこバ

和尚歌

梅津河内なるこのあるものゝとなりにうゑすゑつゝ
家集

郡司武蔵

さくらかりゝ梅津の河べ花さかりうつるかゝみの花さかり
彩色

濱人

万九七

宇治川のみなもとをたきうすそあしかりのこゝろ
長和三年九月彩色御屏風十合の内

大納言公任

ゆく

石ゐるかりやそうしのまきすに波はやしてとも中の月
泉流接政殿百首

家長朝臣

なみ

宇治の川波之久りあつのようひとをつくるこゝ
久安百首奉合

ものゝ

物のふのやそうしうの柱りのうちにたゝとせ山きのこゝ
住吉社頭百首

柱

十郎百首

あきすき

むらの中納言皇太后
ゝ

せ

ゝ

かは

家集

[illegible]

[illegible]

[illegible]

247

五十

雜部

川

底

月

遠江八年百首歌合　後一位良家卿

六十

遠江四年月裏十首歌合のうちの月

陽関

水流院四郎

大神宮百首四年　後一位藤原為家卿

月影

水流院四郎

続古雜中

家集中巻第六年月

白川院

松

老

三月十

五

老

遠江三年百首　水流院四郎

大

月

遠江三年百首　水流院四郎

待

後二位藤原為家卿

六三

大井川

駿河

六三 なるの門かをれのつ[illegible]ぬ[illegible]ひ[illegible]ち[illegible]ひとの[illegible]ひ[illegible]ん

六三 大井川[illegible]ひ[illegible]年[illegible]ひ[illegible]

六三 大井川かをれよりあ[illegible]せ[illegible]せ[illegible]せ[illegible]のいのちのひ[illegible]

遠江国

[illegible]障[illegible]

[illegible]の山[illegible]かは[illegible]ころも[illegible]

[illegible]三年の[illegible]

[illegible]

[illegible]え[illegible]ほ[illegible]ら[illegible]

[illegible]大井河わた

[illegible]おほかは[illegible]こと[illegible]す[illegible]

大井河つる[illegible]

月ヶ中 [illegible]川

[illegible]

古来歌

[illegible]

[illegible]

[illegible]

正応二年毎月百首中　山路　藤原為氏朝臣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

家業 [illegible]田川
[illegible]

[illegible]

同[illegible]川 [illegible]

世中[illegible]

文治[illegible]年[illegible]社一百[illegible]

[illegible]

[illegible]

あふれい船ちりそ形やすの海のゆきく浦じ渡ぬさうて
部屋和歌
よさ人 集和

百ものやそのうらんひまゆてなもひかりんあるらく
もち寺 やそ月
そら
月

二行 万十三
あ雲のうけさ人見ゆるめくらうのそうせの川なうるさうあのうの
久夏百首 やそざ川 河 肥前
春川
第春歌新隆公

やそた川うへのよしてうう桜ちうのそうるんとすん
部屋和歌 まさり川 大和
万七
人丸

しら雲のうのうさうりそん川名花あしうを
玉
ちの百表寺合家河宏 まろ川
肥前

第中納言定家公
部屋和歌
よさ人 ちうず

いはうさいうへ八月うせうまろ川この海たうへ八月むさ
五
五月
部屋和歌

うの川へまろうの川にまろゆるいうたりうとうまろ
月
共 月イ

まろうの海うせのうまいうもむうまうはいうとうすうを
月イ 裾

はうう川うへの浦まろうをうれるみのうのうをめれてあうつうん
夏
早

東山寺合
殿富門院大輔

まろう河川せの雪の海うあれやあううみうう人うはうと
せ

永久四年百そうえ服 後拾遺
まさぞ
百

ううをひうのうまうのうをうりうをうまうさうをあまよ世
取 淵 川 世

郡界記

白水にかりの山つらの山川にかはにかりのひまもらすひとも
百ゝ余

神人やとりのみそさよ出て
出雲ゆきの人の
お漢

とまりかりの山の川波を分くるのくるのくれ
はやすハ二ゝ清水ゆきのの家ハよまへの人ゝ
とりて河を渡りてあまきりまりぶ四ゝ
きりはし時ゆきのとき
ゆくるくる人ゆきとまりて

流二位藤原
逸金右大臣

ゆきの
本國

神ゝれて
郡界記
ゆきの川
下絵

ゆきの人ゆきとも人のおひるれ
ゆきの人ゆきとも

ゆきの川の流れぬいふきあとゝ
ゆきの

後鳥羽院

四三位知盛卿

新六六

ゆきゆきの川の川の年に年
郡久四年辛余百郡
雲毎 郡名雲毎

かは
雲毎ゆきの河の川の方とゝしやうて行くのゆきの
家業ゝ毎のゆきはにゆきて毎人とゝゆきの
とゝゆきかは
ゆき川
本國

西行ゝ人

2554

流れて

ながるるてらいいつれの世まうるまへさ波をとろふさうのせ

家集 ちづのめろ 日前

音

ながるるてらいちいの海をとうりかるるさ波をとろうめるか

たち

同ぢうすうぐ

姫君

家集

ながれのえまうまうまう

三十六

[illegible]

[illegible]

遠江七年[illegible]

法二位[illegible]

山ひくくこちらせいのうのこと

[illegible]二年十月四日[illegible]

法二位[illegible]

[illegible]

[illegible]

六三

[illegible]

[illegible]

法二位[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]合氷河

弥イ

[illegible]

紀伊

同

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いのせは池つくりかけれとさゝゆるさねいえにたゝこゝね

都名所　　なをかの盛言名所

新古今　　おもかるくうつりにけりとゝまるあしの世川のなかやなせさうん

海人苫屋百首　　おもかるおもかる

知こよりて風ふくあしの人とあはさしひきてみるあしの波

都名所　　よこ人　名所

草のあちさかうハのゆきにかゝるこゝろ　計

同

万十四　　あさつけのあそのの川ふかをとそゝゆとさぬよ

古歌　　あまの川　河内ゝ七夕

実方　　ふかいあ川の川かさ　天

実隆四天王院名所四隠ゝみ定歌

如願法師

万十五　　あけ　くさ

ゝ野ゝ人の秋ゝ草ゝ　ゝりみゝりハつゝさあ　せ

歌枕　　能宣名所

ゝ　　ら

ゝ　　天

ゝ　　ら

ゝ　　影

ゝ　　わた

新六三

ゝ　　ら

ゝ　　ら

ゝ　　ら

七十首

百五 [illegible]のあすかの河乃かつらにたるまつ世よ
[illegible]いつくにかひるひさらくもりそ[illegible]れハ[illegible]
しとこ[illegible]るのあすかの河乃かつら世よ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ふきかゝる[illegible]
百十三 [illegible]ひのくもりの[illegible]のかひよするあすかの河[illegible]
いさ[illegible]にいそ[illegible]

人丸

遠長七年歌合長家卿家百首

[illegible]

みむろ山[illegible]のかひよるあすかの河あつ世よ[illegible]

百五十首河[illegible]中 [illegible]

はなもみちもあるかなてのあるこ川ゆくへに[illegible]

家集

拾丁 六五 伊勢集

[illegible]のあくこ河あくこやへのとこ[illegible]

[illegible]百[illegible]首合家河[illegible]

法橋[illegible]

[illegible]

[illegible]川のあ[illegible]

家集

[illegible]

[illegible]

[illegible]

鈴ふるいせちをめけふ

千五百番歌合 あさのをの川 未題

前摂政

袖ぬれするあさのをの川のなかせ

鄙歌 あり川 海松

よるなみたちくしずみ

縁ふかくてありとも川はあらはれ

山家集 あり川八重たに玄覚院 山家 山海入いせ

藤原入道関白

ありとも川松のうらひのうけみ辺てちりもつきのすのこ

家集 小野とは奇なよ中院のをとてよめる

新拾

そとにやのつきの夜のありすの川こそとかなりすの川

日

家集

いさ為こすみ辺のいさりあり行幸すの川ちかのそこにこれ

西の院の対百そ あり川 ちか

仲実卿

みるのいまさとをあり川 あるすれ川 ゆまこそ なみけ

鄙歌

人丸

まきのあり川りの水のゆくとちくまこそ

家集

浜二位家隆

ゆきりくれゆつきうけるあるすの河波あさこりせ

建保三年百首 あぶく西川 陸奥

順徳院御製

あきてふくあのうらにきのふは秋のうらのうん

月

うらうらあふくあ川の雪はれ

常中納言家歌

実隆公家集

みの和とうるくやうらうなくあ

鄙和あきら川

万二 みちのくあさつの川のうらうらかうりうん

よしと人しらずず

みの前帝

さて

ほ

ほうるるかるれてすする和方

かな

あきつの河はあき果

洞院摂政家百首 後二位行能卿

吉

みちのくあさ川のうらはおのれのみ鳴くるかにとかうん

鄙和歌 さしら川 信が

よしと人不知

六三 今更

新勅撰四

とうるさしるうのるれてとうるあきけみすんあるなくた

月さは川あ和

万四 川 踏 渡

あのさうれつうらうむいるのうらのくあ秋いるまあ

洞院摂政家百首 冰

常縁卒入名法名

あきて法をさは川かはあしわりとうかあてのうらうを

歌言和あを さの中川 うを

俊頼朝臣

せ

はうりはしさの中河つうらあて井くひ波の音はたえけうり

百うらうう

能宣伯歌仲人

五月廿八日くもりなくて世絶えぬ中河永かよん

堀百イ

ひさかたの雲井川院面影さしてをゆく

遠保四年内裏すそ分さの川

寄月

洞院摂政家百首

浪に信濃隆々

ながらへぬ我たぬ涙つゆ

ひさかたの雲井そらゆふ

あさぼらけ月もさえわたるかな

ようこそ人の見えぬ

鄙の長道さかの川

催馬楽

さかの川能つくりあさけれと

浪に信濃隆々

さかの川もとのつるつ中絶えて

あけぼの

寄月

ひさかぬるかはくくのみうすけれ

同ノ好名

さかの川せのはやみうもれて

さかの川せのはやみうもれて

なみ

寄月

京極二条十百首　西之信濃家

ひさかぬるかはくくのみうすけれ

川

神つ神はかりれて白雪

ひさかぬるかはくくのみうすけれ

寄月

順

五月廿八日

なり

[illegible]三年六月常盤五郎奉公[illegible]迴百

[illegible]川

[illegible]の[illegible]の[illegible]川の[illegible]

遠[illegible]四年毎日一[illegible]中　[illegible]

[illegible]川の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]川[illegible]

[illegible]

[illegible]

263

新続古今冬

[illegible]

遠き[illegible]八十百首の会

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

万 [illegible]

紅葉 [illegible]

磨 [illegible]

[illegible]

家 [illegible]

別 [illegible]

誰 [illegible]

[illegible]

六三 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

はるかすみとはのさくらにはなのさくさま

文亀元年十七社百首　三月廿日

うちつけのはのうつりかはるやうにはなやさくらん

のとか

新千載　春

ようこうずん

万葉

ひさかたのあまのかはらのはるかぜにいかすぬるかな

衣

早

春歌　三月

ようこうどん

新千載　春

ひかりみそもこうちのかはのはるかぜ

春歌　三月

ようこうどん

すくう山いなちよかうしみとしのこせつやくよりさんけ

春歌　三月

山路のさくら

ひと

勇盛朝臣

はつはるのさくらすはにさくらんかけみそしほのうちよりたま

つ　底

同　伊勢

春を浦祝々

ふかくさやうちとすて河のほとおもうくはかりそうるか

風

西治元年十月合　関白摂政

ちき　おき

はるかすみやうちとすて川よりはるかにうるれのすそそきの岩

なみ

春歌

ようこうどん

はるかすみたちのうちゆくすてみとすて川の水

春歌

ようこうどん

建保三年九月百首　後二位藤隆々

汲　汲

[illegible]

四条

[illegible]

[illegible]

[illegible]

寛安三年閏十二月東山の合歓川を

藤原章綱

みるわらはをすゝめよとてゆかせたりしに

堀川院の御百首　　第六文　河内

いそけとてとりやゝねはみるわれ川をしし人の袖やとまると

鹿山を見る前に河を掬衣をとゝろさの川

文保百首

むすぶ

をとゝしみくさの河の物思ふ人わたらはうとうと

不知邪　山路

六之

市柴のたゝちうきみを川かはをわたれて君をきゝまゝかな

ようこそ

三一

みをつくし

みをとゝ川をさけはなしくゝ苔ぬさはらいつ事誰よまん

みをつくしてあはてゝ浦

耳と川風代のうつりにたるとしのゝゝて実河わたるめ

鄙家知ゝゝの百川　お撰

ようこそ人の

百首

ゆくすゑのみをつくしにはいとゝ深き海のみち

義政院入道二京親王家百首

東海やゝゝゝの百うつり塩のひるまをまつぬゝ海の

野武左衛門

久百の中水を厭河霧を嫌ふ

霞たちぬんとするみの山あらしの
とは

寛元三年撰歌百首　法三位為家

たちまつ波のうらもとつたへてこゑもみるの山河の秋の夕きり
雲

百首歌中　摂津

あしたづ月のみつ潮川うらの秋の松風
嵐

家集　藤川

みなと河夕しかぜにたちそへて風さむかりけり
冬

貞応三年百首　前内大臣

貞応三年十月十日

[illegible]

貞応二年十六月前内大臣百首　河内

[illegible]の山のこの葉ぬれぬ
みなるかは

[illegible]川とる山の波よりけさ立
なり

[illegible]

[illegible]川
山吹み[illegible]或本

[illegible]
万西

[illegible]人[illegible]よりけるみる山川[illegible]
かは

[illegible]
ひとに

天仁二年十一月[illegible]

保[illegible]

[illegible]川[illegible]
分

[illegible]
御秘

[illegible]
を

[illegible]

家集

[illegible]
流

[illegible]
なり

[illegible]
ける

[illegible]

底

[illegible]

[illegible]

[illegible]

霜

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

夢系

[illegible]川の色[illegible]

[illegible]

[illegible]

万土 [illegible]川やとせ[illegible]渡[illegible]故[illegible]こ[illegible]元[illegible]は[illegible]

遠保三年[illegible]百首　前中納言定家

すゑの海やとせ[illegible]渡[illegible]みくまの[illegible]代なりけるかの[illegible]月

家集

[illegible]に[illegible]鷹[illegible]

忠孝

[illegible]鈴鹿[illegible]川[illegible]音[illegible]

[illegible]

哀[illegible]よ[illegible]

遠保三年[illegible]百首　前中納言定家

[illegible]れ[illegible]

順徳院御製

[illegible]

同

[illegible]

信濃守[illegible]

[illegible]ひと[illegible]

前中納言定家

同

[illegible]かは[illegible]

遠保三年百首　前中納言定家

同

[illegible]け[illegible]

[illegible]

前中納言定家

[illegible]なかま[illegible]

家集

[illegible]い[illegible]は[illegible]

[illegible]

家長卿

[illegible]

[illegible]

[illegible]

建長八年百首合　光俊朝臣

春人のわさをひろせにこそかけてたのむ人まつ待ら

同

新六之

この川のみなもやちくさなれんひろせをこそ初てたのめ

百首四十　山路の花　水鶏

沢水のそこいとそこうろひぬる山路の花のもとの

家集　いなわ

みくまの山さねしいくせの川をぬるるも

伊勢

えいえ元年六月

倭歌所

とうせうしうすうのみなれ棹ひとすおくれ

藤原為家

新六之

五月雨にみさそ面さうたゆ井ぬとうせのあ世にはなすけ

うせのくさうたにかのそのあしのそたくさ

家集　あやめ　隔夏

あやのせたにもしさうたゆ紅葉

四十　いとぐつ　五月雨

あるはこのひうりをあやのせとぐ云ひ今

うたて神はもうちうとうへいうとうたく

藤原為氏

三行分ル　ふる人　恋

百九

ゆりさそいうたうにせ三行分ル

うりのもくみなをもくを結

ふるつ

歌集　あさのぬまをとろ　義國

ぬまなみの氷のよろしうかすみ山ちもとゆえやぬん

西院百首四首　武蔵国親王

かくそたいてうさぬまのらんつとしたるなたらう　神祇

遠長八年百首六の合　永業門左衛

月の秋はぬれぬそぬるぬまの水イ川のわたまの草の秋かれて

文治六年女社百首　皇太后宮大夫俊成

奥山のあにのうさぬのあやめまもくへなすよ移やなるらん

家集　郡主御

かりの汐干のうくれの沼ぬまにたてるうくはなくかな

阿波院の御百首　大納言師教

うきつるあさくいかなるのぬまの沼

同　いさのぬま

うきおらそたけもよろうはいさのいさのぬまの沼

隠岐入道前太政大臣家百首　摂中納言師房

月影なるうきぬ

仲文朝臣

堀百すすしの浅沼ぬまのうきつるあるぬまもうきぬ

同　いさのぬま

うきおらそたけもよろうはいさのいさのぬまの沼

隠岐入道前太政大臣家百首　摂中納言師房

月影なるうきぬ

仲文朝臣

東院のうちぬまのうちもとたてるなしさ

文治百首　いさのぬま　陸奥　人丸

万面 上野

[illegible]のいけのぬまのうへにさくらのもとにて

建保三年九月十四日の聖源院の記

まこと

ゆきもやまのいけのぬまのいけのはかりに池のうへにさくらの比

信西行えん

同

万面

こずゑのさくらの沼のあやめぐさ草なるものとは誰かしるらん

植

同

西行法師

沼

いけのやうふかきみぎはのいけのさくらの沼さくらん

同

前中納言定家

同

かくばかりあやめのぬまのあやめぐさ[illegible]

藤原家隆

あさうのぬまのたまのさくらんいけのぬまの[illegible]そら

同 俊奥

兵

[illegible]

[illegible]

[illegible]

金葉雜上

きよみ中に侍り人いるるすみこちのくのあさうけ沼よ猿殺をは

かりつけのいるのの沼の水の草の末をたにこの沼をそまれ

百首歌中

逢ことをあるいるの沼の姿かゆるさこそまやこの沼ゆ

貞応三年百首歌

即位の歌

物の井さき沼いるへ沼ゆ嘆ぬさ沼れ

天仁三年十月影堂の歌合　菖蒲

ふるの沼山徳

渡

見ぬまとをいふる見るの沼

ふるの沼菖蒲

寿永八年閑白左右歌合

第五　菖蒲

建長八年百首歌合　さかの沼　山徳　定家卿

いるるさ沼えの沼の月をしはの山に雪はふりて

永観元年九月出雲守の屏風の歌の

元亨

続古今

さかの山の山さむ雲をたのしむ

寛治六年六月家通公歌合　なごりの山

右京亮房卿

ひくねさへ遥なる代のあとのなみ満干ぬ

天延元年内裏屏風

わらはのくさへの沼にかりかるくまのみとりそみるかなん

ちかきしまやくもまえのぬまの菖蒲草つくねちよの根とうえん

歌集ものの本

同

かくて世にあるかぎりのあやめぐさねをたえぬかつるさは

遠忌七年弘徽殿の前沼まえ池の沼

源仲遠

春雨いろうしみひろうふるみち沼にはやとも

あつまへくだりけるに　源光行

かけひすぬまのつりぶねにはやとりしは

はるかに行方知之記云ふしまぶ水はいぶくまのも

きくとるすぬのをひろがじとしら山の

みどりとそうてそもみもえつくあらむ

をぶの水ぶよさはさてむれたる名ぶちくん

ちさまれて　ちの波ぶがり濁りとみるさ

地ふまいぶわるぶるんぶそ弟ふ山ぶや

のそぶりあ　ぶそうてとそ

海原者須百首うけ侍りしとき

無題和歌

水

みちのくにの沼のもとにあるいさかわの寺にて

近衛太政大臣家合歌にお蓮浮みどりの江

ようこう

ふかくこそ

みよしの水

ふるさとの

ふかくこそ

みよしの水

ふるさとの

ふかくこそ

みよしの水

ふるさとの

天木和歌抄卷第二十四

終